

徳とく泉く寺ほ報う

No.0049

発行
令和3年11月
発行元 徳泉寺
仙台市宮城野区
榴岡3-10-3

(022)297-4248

メールアドレス

[tokusenji.send](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)

ai@gmail.com



ホームページ

[tokusenji-
sendai.com](http://tokusenji-sendai.com)



Instagram

[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



TOKUSENJI.SENDAI

モンポウ(聞法)ってなんだろう

徳泉寺同朋会 会長 越浪紀元さんにインタビュー

真宗では「仏法を聞くこと＝聞法」が大切にされています。仏法を聞くとはどういうことなのか、長年徳泉寺にも通い、聞法を続けておられる同朋会の会長、越浪紀元さんにお話しをうかがいました。

Q 仏法に触れるようになったのはどういった縁でしたか？

実家がもとと真宗大谷派で幼い頃から真宗の教えには触れていましたが、本格的に仏教を学びたいと考えるようになったのは実母の死がきっかけでした。真宗大谷派だけでなく本願寺派(西本願寺)や他のさまざまな宗教に関する本を読み、当時は東京近辺に住んでいましたので、東京のお寺を訪ねていろいろな先生のお話しを聞いて、私の求める教えはこれだ、と実感するに至りました。特に、坂東性純(ほんどうしやうじゆん)先生は英語が堪能でキリスト教と真宗の教えを比較したりしながら何度も繰り返しお話ししていただき、他宗教と真宗の捉え方の違いや、どの宗教にも根本に流れる願いに共通するものがあると気がきました。

Q 徳泉寺にはいつ頃から？

二十三年ほど前、仙台に転勤になって聞法の間を探していた時に東北別院が主催する「市民講座」で徳泉寺の前住職のお話しを聞き、そこから夫婦で徳泉寺の同朋会に通うようになりました。前任職の計らいもあって、本山に上山して帰敬



式を受けて法名をいただくこともでき、寺院の枠を越えて他寺院のご門徒さんと同朋の会を立ち上げたりもして、自身の聞法を続けてきました。

Q 長い間、聞法を続けて来られる中で、調子の悪いときやどうしても気持ちが聞法に向かないときなどはありませんでしたか？

人間とはどういう生き物なのか。一人では寂しいのに、二人だと相手が邪魔になる。そんな厄介な身を私は生きているのだとわかって、仏道を歩き始めてからは、道は歩き続けなければ道にはならない、お寺通いは止められないという気持ちがあります。なるほどわかった、とそこで腰を下ろして足を止めてしまうと、自分の考えに固執して迷ってしまう。そうではなくて住職の話を聞いて軌道修正し、他の人と私はこう聞いたと語り合ったり、それぞれが抱える悩みの自分とは違う部分を聞き合ったりすることが大切だと思っています。そういう考え方になってくると、どんな時でも聞法を続ける気持ちがなくなるといったことはありませんでした。

Q 越浪さんにとって仏教とは

仏法を聞いて阿弥陀の本願をきちっとわかると進むべき方向がわかってきます。またわかるだけでなく、日常の中に仏教を生かしていくことが大切だと思っています。自分と合わない人に対して気に入らないと思ったときにも「私はそういう生き物だ」と思えますし、なにかあったときに「あ、これは仏教でいう所のあのことだな」と考えられます。私にとって普段の生活の中に常にあり、生きる指針となるものが仏の教えだと言えます。

人生の半分近く聞法を続けておられるという越浪さん。穏やかで聡明なお姿の奥には真理に対する鋭い考察があるのだと感じさせられました。聞法を続けていく難しさを常々感じているのですが、どんな時も歩き続けるという姿勢に教えられ、励まされる思いがしました。